



OSAKA SODA

2025年3月期 中間期決算 および事業計画説明会

2024年12月4日

株式会社 大阪ソーダ

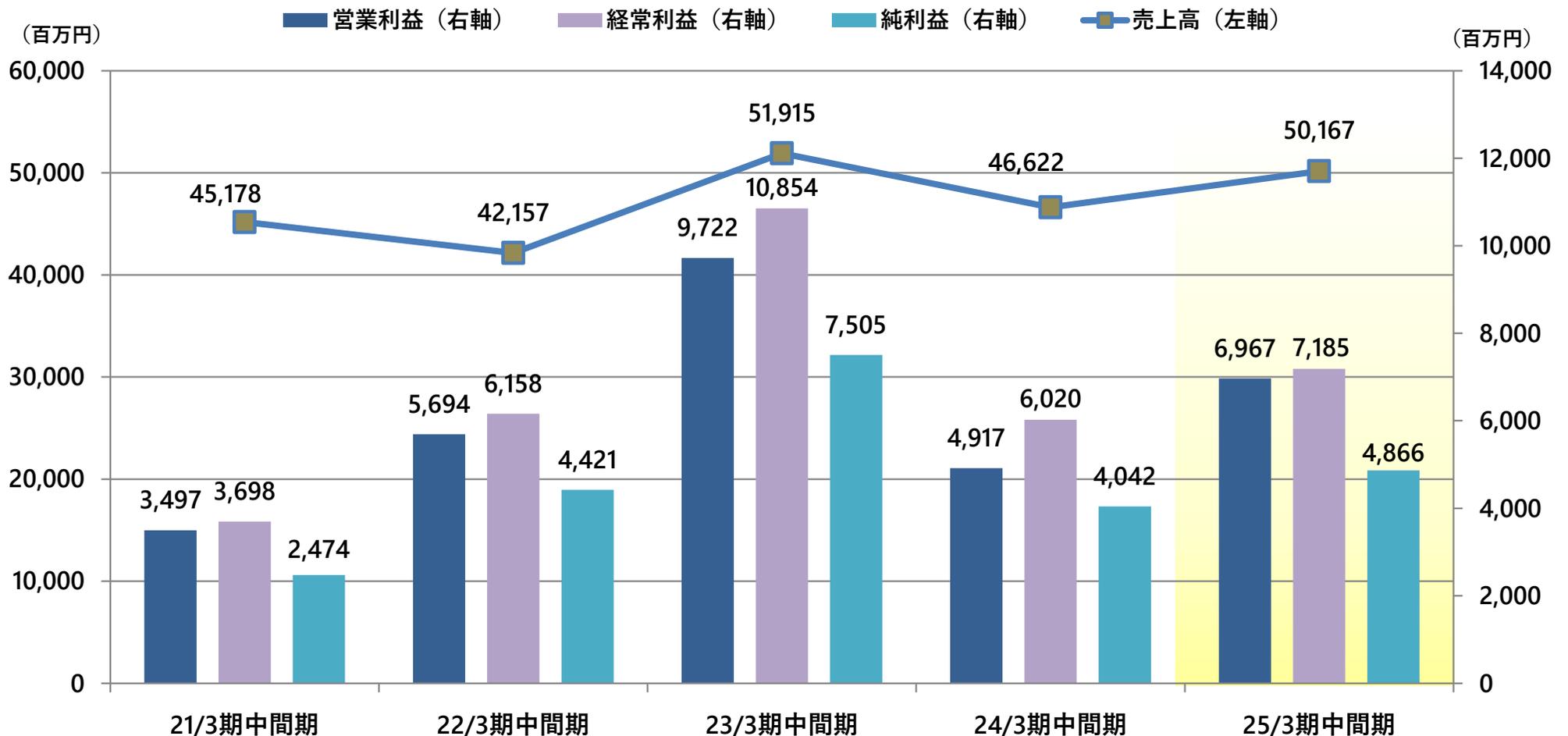


2025年3月期 中間期業績

業績推移 (21/3期中間期～25/3期中間期)

- 生産トラブル影響の大幅縮小、ヘルスケアの順調な成長により、対前年同期で増収増益
- 基礎化学品を中心に市況軟化の影響を受けるも、過去最高益に次ぐ利益を達成

売上高および営業利益、経常利益、当期純利益の推移



(※) 22/3期より「収益認識に関する会計基準」等を適用

2025年3月期中間期 概況

- 24年6月末で生産トラブルの影響は解消し、増収増益
- 営業利益は、概ね期初計画どおりの進捗、前年同期比で大幅増益

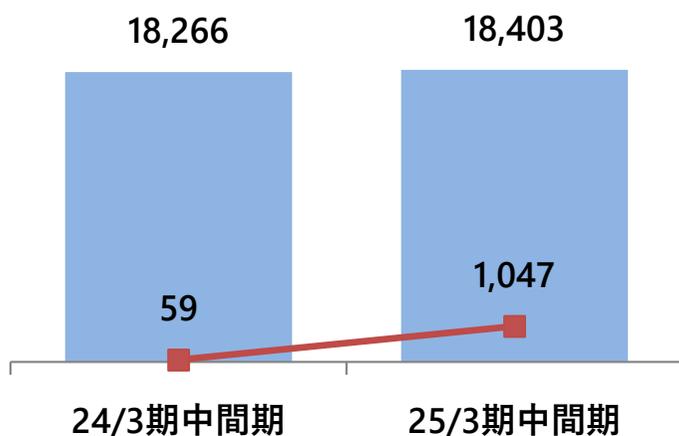
	24年3月期中間期		25年3月期中間期		増減		期初計画	達成率 (%)	計画差異
	(百万円)	構成比 (%)		構成比 (%)	金額	率(%)			
売上高	46,622	—	50,167	—	3,545	7.6	50,000	100.3	167
営業利益	4,917	10.5	6,967	13.9	2,050	41.7	7,100	98.1	▲133
経常利益	6,020	12.9	7,185	14.3	1,165	19.4	7,600	94.5	▲415
中間純利益	4,042	8.7	4,866	9.7	824	20.4	5,200	93.6	▲334
1株当たり 中間純利益	31.78円	—	38.36円	—	—	—	—	—	—
海外売上高	14,542	31.2	19,512	38.9	4,970	7.7	—	—	—
前提条件	24年3月期中間期	25年3月期中間期							
U S \$ / 円	139円	154円							
ユ - 円 / 円	151円	167円							
ナフサ (円/KL)	64,500円	79,000円							

(※) 2024年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の株式分割を行っております。前年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり中間純利益を算出しています。

セグメント（基礎化学品）

- 基礎化学品全般において、生産トラブルによる供給問題が6月末で解消
- クロール・アルカリおよびエピクロルヒドリンは、市況軟化および需要低迷による影響を受けた

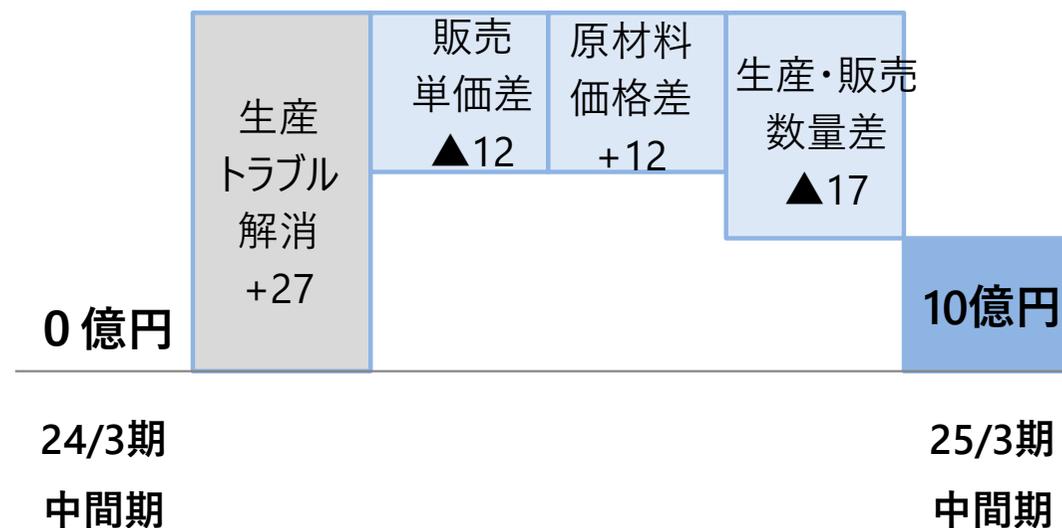
■ 売上高 ■ 営業利益 （百万円）



売上高増減（前年同期比+1億円）

クロール・アルカリ	▲16
エピクロルヒドリン	▲13
生産トラブル解消	+30

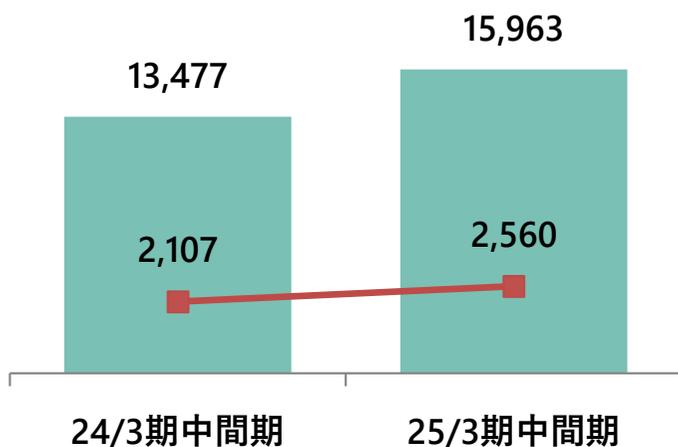
営業利益要因（億円）



セグメント（機能化学品）

- 合成ゴムは、自動車用途向けのエピクロルヒドリンゴムが、環境規制強化にともなう他材料からの代替需要が増加し、堅調に推移
- 合成樹脂は、UVインキ用途で中国を中心に新規採用が拡大
- アリルエーテル類は、生産トラブルの解消に加え、中国で機能性塗料向けを中心としたシランカップリング剤向け需要が堅調に推移

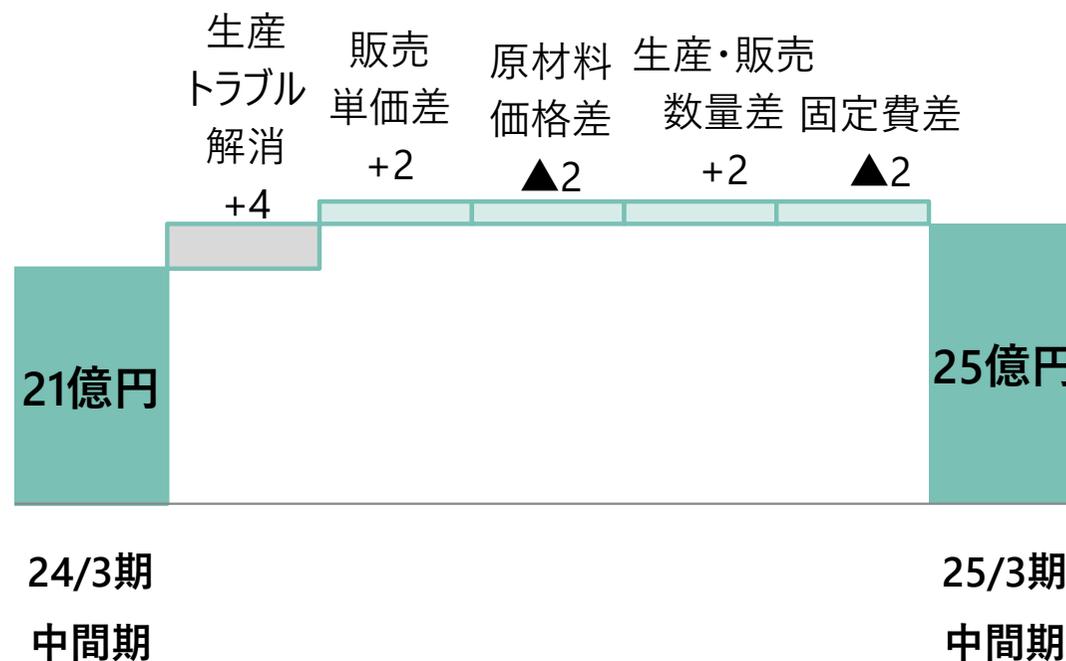
■ 売上高 ■ 営業利益 （百万円）



売上高増減（前年同期比+25億円）

合成ゴム・合成樹脂	+9
アリルエーテル類	+8
その他	+3
生産トラブル解消	+5

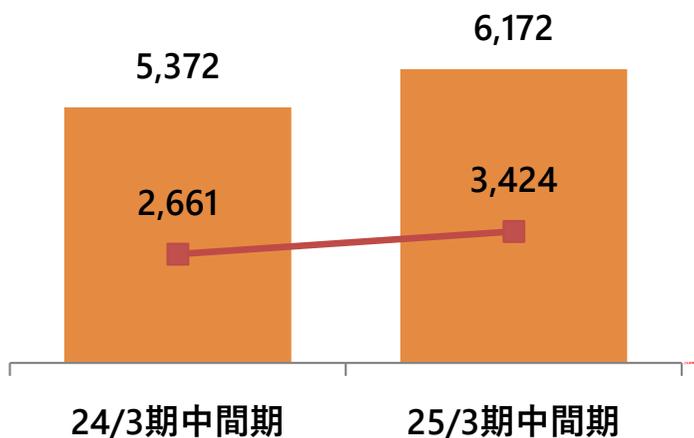
営業利益要因（億円）



セグメント（ヘルスケア）

- クロマトは、医薬品精製材料では、欧米・アジア向け糖尿病治療薬および肥満治療薬用途等の需要が拡大
- 医薬品原薬・中間体は、糖尿病の合併症治療薬、筋疾患治療薬原薬の販売が拡大するも核酸医薬品原薬、抗潰瘍薬中間体の販売が減少
- 松山工場シリカゲル新設備は、計画通り24年9月に完工

売上高 営業利益（百万円）



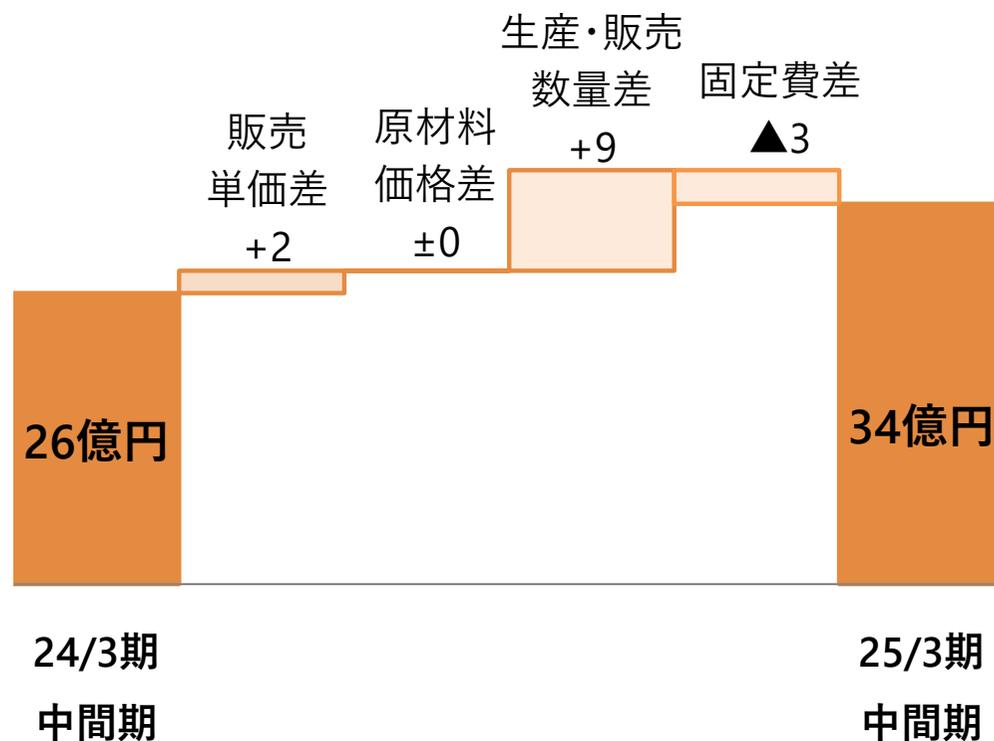
売上高増減（前年同期比+8億円）

クロマト* +9

医薬品原薬・中間体 ▲1

* 医薬品精製材料、カラム・装置等分析機器

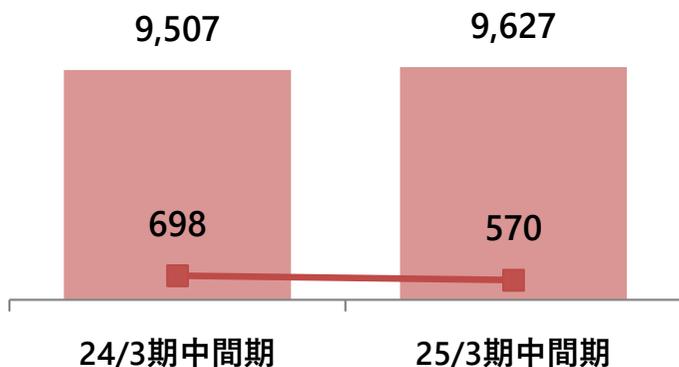
営業利益要因（億円）



セグメント（商社部門ほか）

- 機能製品は、電子材料関連や自動車向け商材を中心に需要が回復
- コンシューマープロダクツでは、建材の販売が拡大
- 22年度末に撤退したプラント事業の影響を受けた

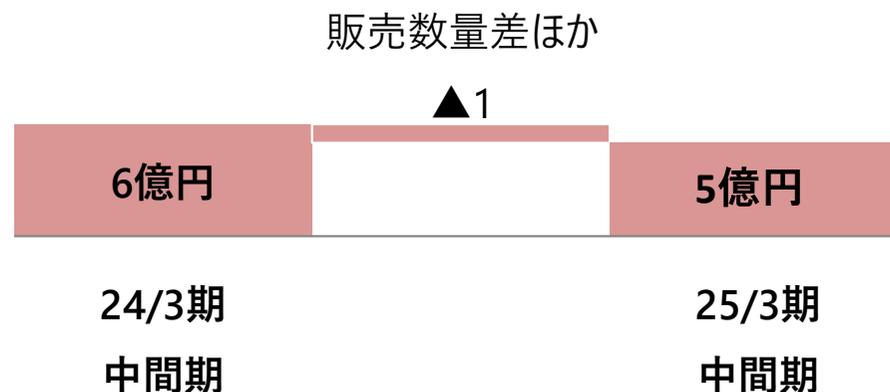
■ 売上高 ■ 営業利益
（百万円）



売上高増減（前年同期比+1億円）

機能製品	+3
建材	+1
プラントほか	▲3

営業利益要因（億円）



貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書

- 自己資本比率は引き続き70%台と高水準を維持
- 安定的な財務基盤をもとに、能力増強等の戦略投資、維持・効率化投資を実施
- シリカゲル新設備や基幹システム等の大型投資で、投資CFは前年同期比を大幅に上回る

(百万円)	24/3期2Q末	24/3期末	25/3期2Q末	24/3期末比
総資産	146,439	150,541	153,061	2,520
純資産	105,928	109,765	112,739	2,974
自己資本比率	72.3%	72.9%	73.7%	0.8%
有利子負債	7,673	7,630	7,656	26

(百万円)	24/3期2Q	24/3期	25/3期2Q	前年同期比
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,149	8,597	10,117	4,968
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲815	▲4,263	▲4,483	▲3,668
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,167	▲3,199	▲1,226	▲59
現金および現金同等物	40,450	38,432	42,963	2,513



2025年3月期 事業計画

2025年3月期 事業計画

- 当期は、営業利益および当期純利益で過去最高益の更新を計画
- 中国の景気回復の遅れなどの下振れリスクを懸念するも、生産トラブル影響の解消に加えヘルスケアの販売が拡大する見通し
- 基礎化学品の需要回復を織り込み、通期業績予想は期初計画を据え置く

(百万円)	24年3月期		25年3月期計画		増減	
		構成比(%)		構成比(%)	金額	率(%)
売上高	94,557	—	103,000	—	8,443	8.9
営業利益	10,492	11.1	16,000	15.5	5,508	52.5
経常利益	12,008	12.7	16,800	16.3	4,792	39.9
当期純利益	7,650	8.1	11,500	11.2	3,850	50.3
1株当たり 当期純利益	60.17円	—	90.65円	—	—	—
海外売上高	32,327	34.2	39,200	38.0	6,873	3.9
前提条件	24年3月期		25年3月期計画			
U S \$ / 円	143円		144円			
ユ - 円 / 円	155円		158円			
ナフサ (円 / KL)	69,000円		73,000円			

(※) 2024年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき5株の株式分割を行っております。前年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算出しています。

セグメント別売上高・営業利益計画

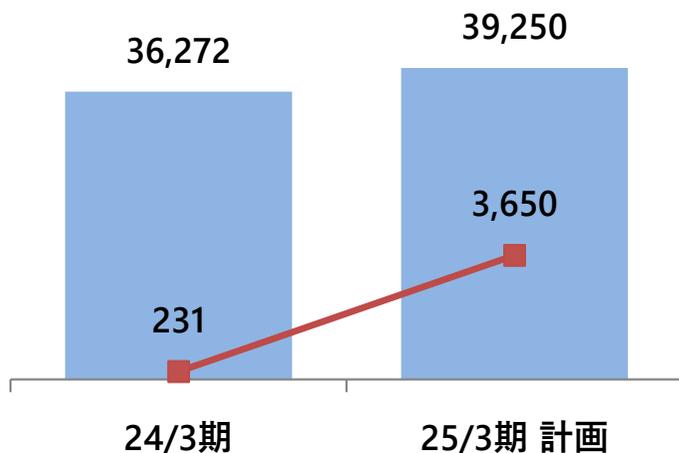
- 基礎化学品は、生産トラブル解消に加えて、需要回復を織り込む
- 機能化学品は、上期に引き続き下期も合成ゴム・合成樹脂の堅調な販売を見込む
- ヘルスケアは、引き続き需要拡大を背景に好調に推移すると見込む

		24年3月期			25年3月期計画			増減		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
		(百万円)								
売上高	基礎化学品	18,266	18,006	36,272	18,403	20,847	39,250	137	2,841	2,978
	機能化学品	13,477	15,656	29,133	15,963	16,037	32,000	2,486	381	2,867
	ヘルスケア	5,372	6,496	11,868	6,172	7,128	13,300	800	632	1,432
	商社部門ほか	9,507	7,776	17,283	9,627	8,823	18,450	120	1,047	1,167
	合計	46,622	47,935	94,557	50,167	52,833	103,000	3,545	4,898	8,443
営業利益	基礎化学品	59	172	231	1,047	2,603	3,650	988	2,431	3,419
	機能化学品	2,107	2,437	4,544	2,560	3,040	5,600	453	603	1,056
	ヘルスケア	2,661	3,054	5,715	3,424	3,326	6,750	763	272	1,035
	商社部門ほか	698	519	1,217	570	680	1,250	▲128	161	33
	全社・消去	▲609	▲607	▲1,216	▲635	▲615	▲1,250	▲26	▲8	▲34
	合計	4,917	5,575	10,492	6,967	9,033	16,000	2,050	3,458	5,508

セグメント（基礎化学品）

- 基礎化学品全般では、生産活動の正常化と需要回復を織り込む
- クロール・アルカリは、回復基調にある内需に対し地場密着型営業を強化しシェア維持を図る
- エピクロルヒドリンは、海外を中心とした需要・市況の回復に即応し拡販と採算改善に注力

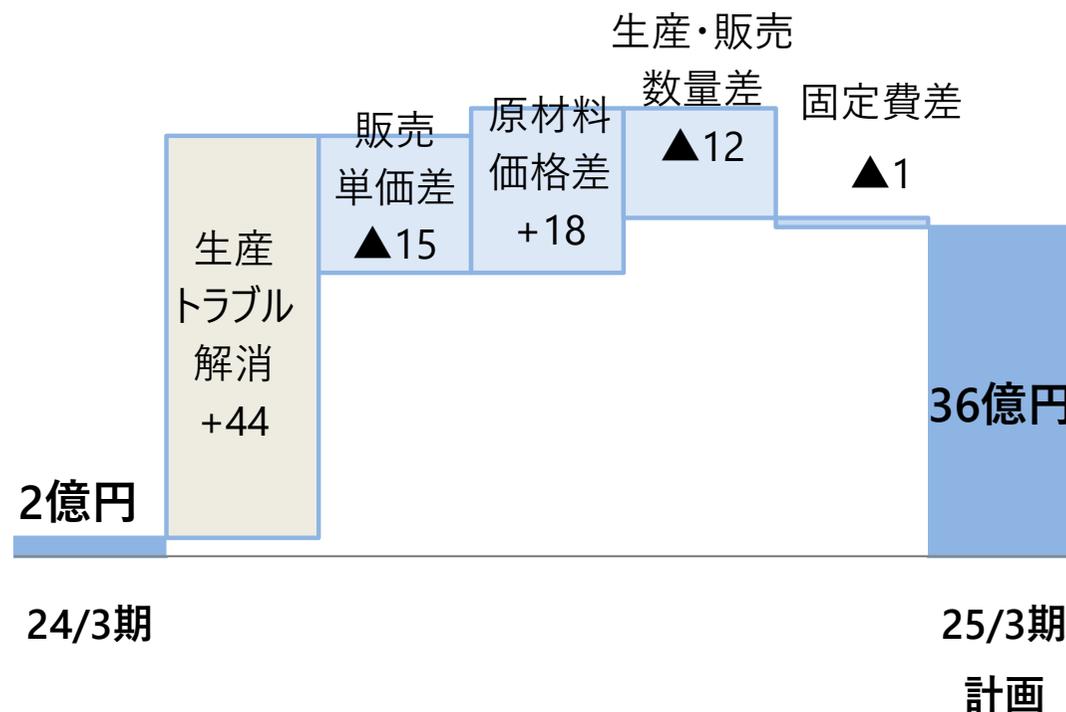
■ 売上高 ■ 営業利益 （百万円）



売上高増減（前期比+30億円）

クロール・アルカリ	▲5
エピクロルヒドリン	▲11
生産トラブル解消	+46

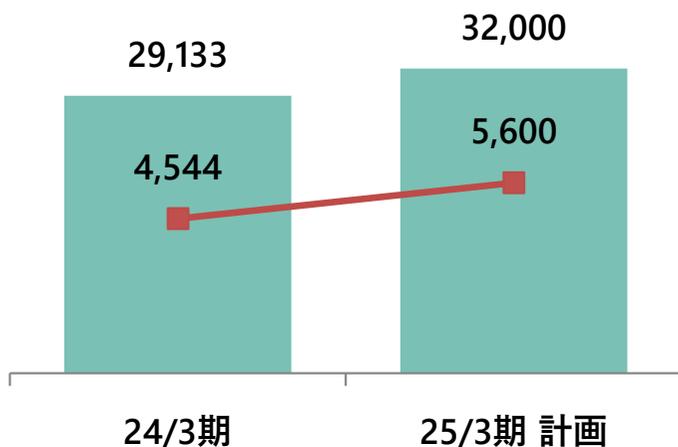
営業利益要因（億円）



セグメント（機能化学品）

- 合成ゴムは、エピクロルヒドリンゴムでは、新興国での環境規制強化にともなう他材料からの代替需要の取り込みに注力、アクリルゴムでは、上期に実施したボトルネック解消工事により改善した生産能力を活かし、新規採用の獲得を加速
- 合成樹脂は、中国を中心としたUVオフセットインキ向けのシェア拡大を図る
- アリルエーテル類は、電子材料を中心にシランカップリング剤向けの需要回復を見込む

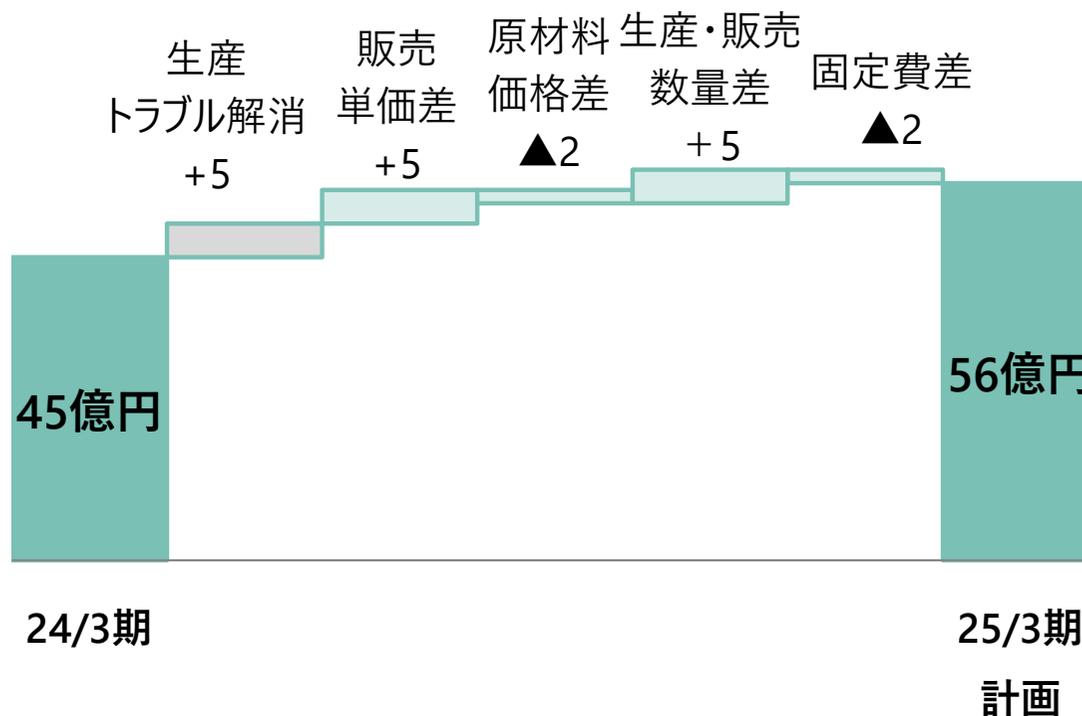
売上高 営業利益（百万円）



売上高増減（前期比+29億円）

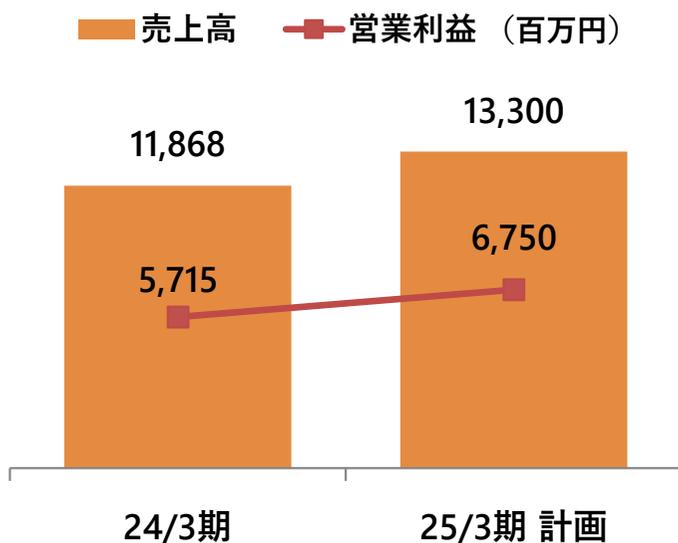
合成ゴム・合成樹脂	+14
アリルエーテル類	+10
その他	▲1
生産トラブル解消	+6

営業利益要因（億円）



セグメント（ヘルスケア）

- クロマトは、糖尿病治療薬ならびに急拡大する肥満治療薬向けの販売を拡大、アジアを中心とした新規顧客の取り込みにより、さらなるシェア獲得を目指す
- 医薬品原薬・中間体は、原薬調達の国内回帰にともなう新規需要の獲得を図る



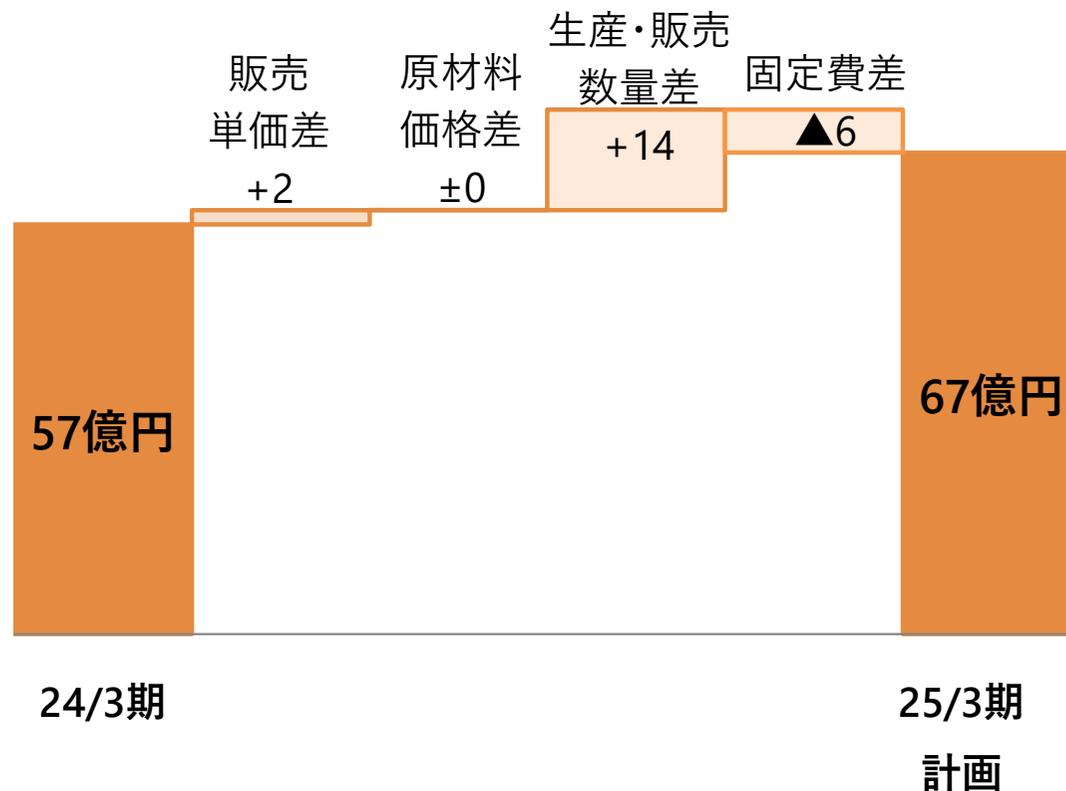
売上高増減（前期比+15億円）

クロマト* +14

医薬品原薬・中間体 +1

* 医薬品精製材料、カラム・装置等分析機器

営業利益要因（億円）



セグメント（ヘルスケア）トピックス

- 2024年9月、松山シリカゲル製造設備が完工
- 製造に供するエネルギーは、CO₂フリーの環境配慮型工場
- 最新機器の導入や工程の自動化により生産効率の向上を実現
- 2026年の本格的な商業生産の開始に向けて、顧客評価用サンプルを製造、順次出荷中



【シリカゲル製造設備 概要】

所在地：愛媛県松山市北吉田町77番地
延床面積：2,400㎡、4階建て
投資金額：約30億円

松山シリカゲル製造設備の新設の背景

糖尿病治療薬および肥満治療薬の急速な需要拡大に対応



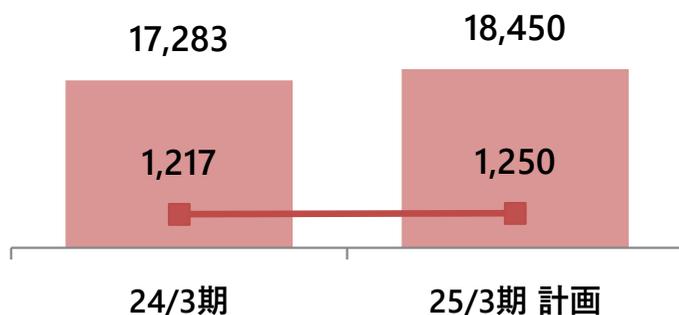
新興国を含む製薬メーカーによる肥満治療薬の開発加速を受け、中長期の需要動向の再検証と並行して

- ✓ 尼崎工場第2期増強工事の工期短縮
- ✓ 次期増設について検討を開始

セグメント（商社部門ほか）

- 機能製品では、ガラス繊維等で自動車関連を中心とした需要回復を見込む
- 特殊ポリマー材料は、自動車、建築分野を中心に需要回復を見込む
- 建材は、販売が堅調に推移

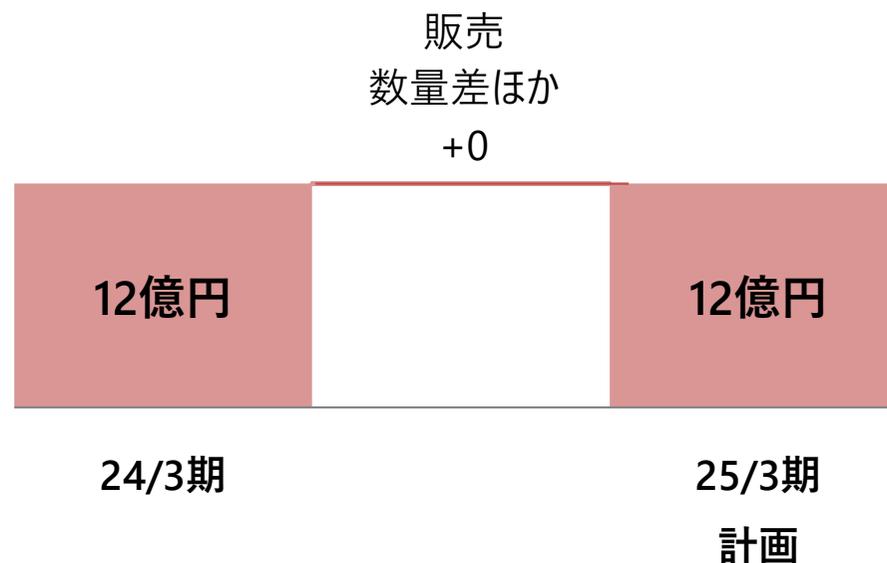
■ 売上高 ■ 営業利益（百万円）



売上高増減（前年同期比+12億円）

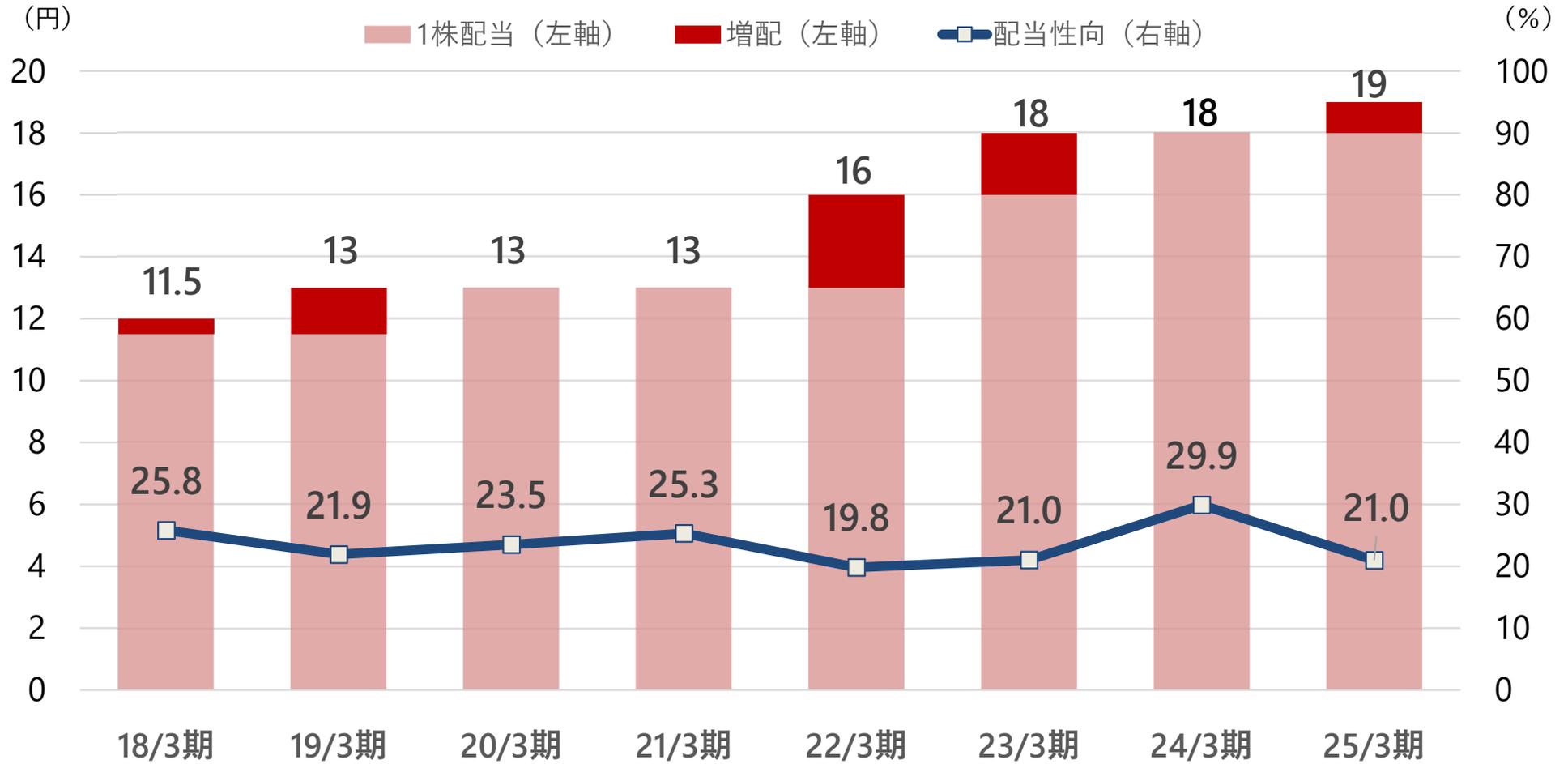
機能製品	+3
特殊ポリマー材料	+2
建材	+1
その他	+6

営業利益要因（億円）



株主還元

- 25年3月期は、前期から増配し、年間配当19円*を予定
- 中期経営計画期間（2023～2025年度）は、総還元性向40%を目指す



* 18/3期以降の1株配当は、2024年10月1日付の株式分割後の数値に換算して記載



クロマト事業の拡大に向けて

クロマト材料の開発展開

- 医薬品のモダリティ変化に対応し、ポートフォリオを拡充
- 新たな修飾基の開発等により製品ラインナップを強化
- 三菱ケミカル(株)との業務提携により開発したポリマーゲルの今期での実績化を進める
- 新たな分離法として確立が進む超臨界流体クロマトグラフィー（SFC）に着目、開発推進中

	低分子	中分子	高分子
分子量	1,000以下	1,000～10,000程度	数万～10数万程度
主な医薬品の種類	感染症薬 精神・神経薬 循環血液薬 消化器薬 高脂血症治療薬 呼吸器薬など	【ペプチド医薬品】 糖尿病治療薬 肥満治療薬 甲状腺機能亢進症薬 骨粗鬆症薬 急性心不全薬など 【核酸医薬品】 脊髄性筋萎縮症薬 筋ジストロフィー薬など	【抗体医薬品】 がん治療薬 リンパ腫薬 血友病薬 喘息薬 関節リュウマチ薬など 【mRNA】
精製方法 (適応範囲)	蒸留・晶析		
		液体クロマトグラフィー（シリカゲルを用いた分離・精製）	
			液体クロマトグラフィー（ポリマーゲルを用いたクロマト分離・精製）
			超臨界流体クロマトグラフィー（SFC）

開発事例：超高表面積シリカゲル

- 業界最高クラスの「超高表面積シリカゲル」を開発（1gあたり約600平方メートル以上）
- 高脂血症治療薬（EPA）をはじめとした低分子化合物の精製効率従来品比約3割改善
- 超臨界流体クロマトへの適用を目指し、表面修飾技術を開発中

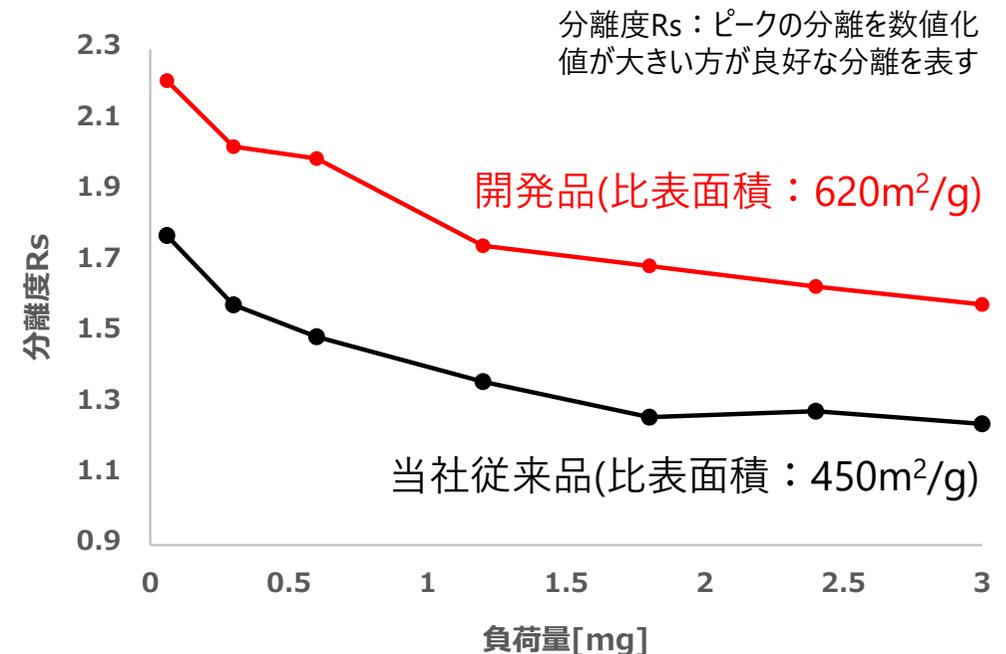
開発品 の特徴

- ✓ 比表面積が大きいほど分離対象サンプルの負荷量が増大でき、精製工程での処理量が向上
- ✓ 低分子化合物が内部にアクセス可能な45 Å以上の細孔径、600m²/g以上の比表面積を有する

超臨界流体クロマトとは？

- 移動相に超臨界流体（CO₂等）を使用
- 低粘性、高拡散性の特性から背圧が低く、高い分離性能を維持したまま高速分離が可能
- 移動相に多量の溶媒を使用しないため、分取精製後の溶媒除去がほぼ不要

- 負荷量が増加しても高い分離度を維持
- 低分子化合物精製の生産性向上に寄与



シリカゲルの増強計画と需要動向

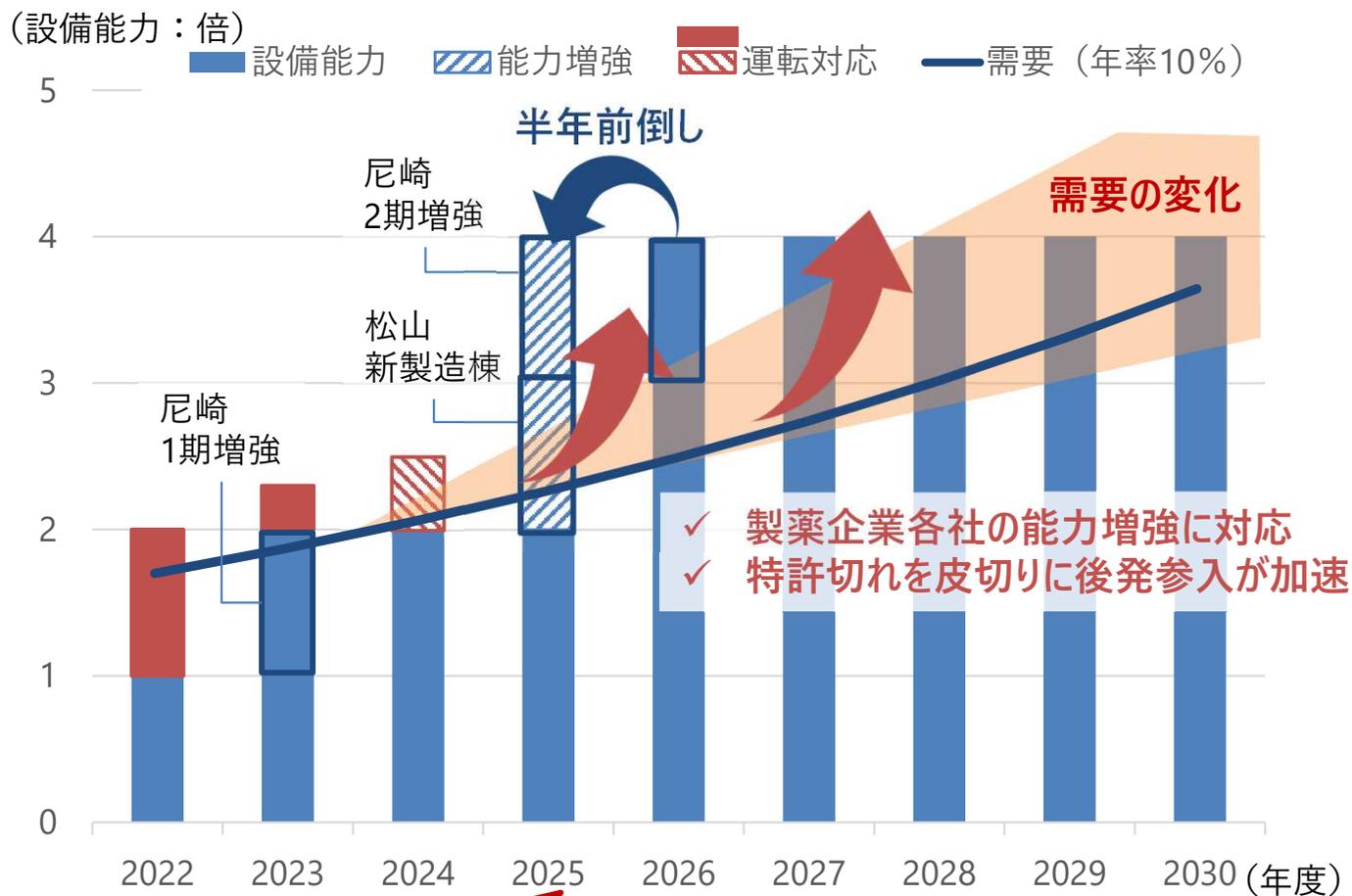
- 2024年9月に完工した松山シリカゲル設備は、顧客評価の早期化を目指す
- 尼崎工場第2期増強は、2025年度内の完成へ向けて6か月の工期短縮を検討
- 次期増設計画についても、2025年度内に方針を社内決定の予定

当社を取り巻く需要環境

- 肥満治療薬では、欧米や新興国の先行製薬企業で大規模増設が進行
- 中国やインド等でバイオシミラーの開発競争が激化



当社の次期増設計画の前倒しを検討





OSAKA SODA

お問合せ先：
株式会社 大阪ソーダ
経営企画部 広報グループ
TEL：06-6110-1560

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。
本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではありませんのでご了承ください。